令和４年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　長野県長野市大字幅下 692-2
管理機関名　　長野県教育委員会
代表者名　　教育長　原山　隆一

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和３年４月１日　～　令和４年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　　長野県長野高等学校
学校長名　宮本　隆
類型　　グローカル型

３　研究開発名
SDGs 未来都市を創造するグローカルファシリテーターの育成

４　研究開発概要
「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」を育成する探究を学校設定教科「NGP」，学校設定科目「英語キャリアプロジェクト」及び総合的な探究の時間で行う。国際会議を開催し地方創生に繋がる政策を提言し，コンソーシアムとの協働により発信する。学校だけでは完結しない，新しい学びの体系を研究開発する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　　有
・教育課程の特例の活用　　有

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
中村　正行	信州大学工学部教授	委員長
山口　利幸	元長野県教育長	副委員長
久世　良三	株式会社サンクゼール代表取締役会長	

清水　唯一朗	慶応義塾大学総合政策学部教授	
中川　美紀	ソフトインテリジェンス塾代表・ビジネスアナリスト	

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
長野市	荻原　健司
長野県企画振興部総合政策課	金井　伸樹
長野県教育委員会	原山　隆一
信州大学教育学部	宮﨑　樹夫
信州大学工学部	天野　良彦
長野県立大学	金田一　真澄
東京海上日動火災保険株式会社長野支店	橋本　有司
長野青年会議所	百瀬　衛
八十二銀行	松下　正樹
金鵄会（同窓会）	桃林　聖一

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	－	－	－
海外交流アドバイザー	恵崎　良太郎	松本空港国際化特別顧問	月１回程度来校（報償なし）
地域協働学習支援員	田中　伸篤	東京海上日動火災保険株式会社長野支店　広域・グローバル支援担当	随時支援（報償なし）
	中村　真紀子	元長野放送報道部及び広報部	非常勤職員として県が雇用

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(ｱ)運営指導委員会の設置及び開催	←											→
(ｲ)SHフォーラム					↔						↔	
(ｳ)「探究的な学び」研究会				↔							↔	
(ｴ)指定校取組の紹介	←											→
(ｵ)人事面における配慮	←											→

（2）実績の説明

①　管理機関による管理方法

県教育委員会所管課（学びの改革支援課）に担当指導主事を置き，指定校の取組に係る手続等を一括管理。同課内に置く他の文部科学省事業指定校を担当する指導主事との間で情報共有及び

連携を日常的に行うとともに，指定校事業担当者に対して，事業全般に係る恒常的な指導・助言を行った。

② コンソーシアムの体制強化と地域連携の推進

コンソーシアム構成団体を９団体から10団体にするとともに，コンソーシアム構成団体間の連携・協働体制の強化を図った。

③ 管理機関による主体的な取組

（ア）運営指導委員会の設置及び開催

・研究開発関連授業の参観，取組の概要説明，意見交換及び指導
８月26日（木）オンライン会議，２月３日（木）オンライン会議

（イ）指定校取組の紹介

・指定校の研究開発成果，運営指導委員会の内容について広報し，本事業について周知を図る。

（ウ）人事面における配慮

・県の「カリキュラム編成支援事業」により，地域協働学習実施支援員を配置
・外国語指導助手（ALT）１名に加え，実績のある特に優秀な外国人講師をグローバル講師として県独自に雇用し，そのうち１名を長野高校に配置

④ 事業終了後の自走を見据えた取組について

（ア） 地域協働学習実施支援員の配置の継続等，コンソーシアムの継続に係る予算措置

・ 事業終了後も海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員及びグローバル講師を配置する等，本事業の骨格を維持するため予算措置を行う予定

（イ）発信力育成講座の発展・継続

・プレゼンテーション及びディスカッションに係る大会を実施し，県内高校生の発信力育成の充実を図る。

（ウ）「探究的な学び」研究会

・県立高等学校の学習指導担当者が集まり，指定校の研究開発の軌跡について学び，各校における「探究的な学び」の充実に資する研修会を開催

１０ 研究開発の実績

（1） 実施日程

業務項目 ※①②総合的な探究の時間③総合的な学習の時間	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 「長野のグローカル戦略を探る」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
② 「SDGsから見た長野のグローカル戦略」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
③ 「グローカルアカデミア」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
④ 課題探究中間発表会（1年）											↔	
⑤ 課題研究発表会（2年）									↔			
⑥ グローカルアカデミア発表会・国際会議		↔		↔								
⑦ 「英語キャリアプロジェクトⅠ」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
⑧ 「英語キャリアプロジェクトⅡ」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
⑨ 台湾との協働プロジェクト（オンライン）							←	→				

⑩ 台湾研修のための連携会議（オンライン）					↔			↔				
⑪ 米国リーダー研修（中止）												
⑫ グローバル人材育成プログラム（⑪の代替）	←											→
⑬ 上記以外の校外との連携プログラム	←											→
⑭ 成果の普及	←											→
⑮ グローカル事業研究報告書												↔
⑯ グローカル事業評価委員会											↔	

（２） 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

・学校だけでは完結しない，全生徒対象の新しい学びの体系を研究開発している。「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」の３つのスキルを育成するために，学校設定教科・科目，校外フィールドワーク，外部人材活用，遠隔授業，海外研修，教科横断的な学びを日常の授業の中に位置付けている。

・地域課題研究に係る全体テーマ「コンソーシアム・連携組織との協働による，長野県が抱える地域課題の解決と，『SDGs 未来都市』計画の実現に向けた効果的な戦略の研究」を踏まえ，長野県が抱える課題解決に資するテーマを設定し，課題研究を行っている。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

（各教科・科目や総合的な探究／学習の時間，学校設定教科・科目等）

・学校設定教科「NGP」(NAGANO GLOCAL PROJECT)を設定し，学校設定科目「英語キャリアプロジェクトⅠ，Ⅱ」及び「総合的な探究の時間」で，１・２年生全員が課題探究を行うと共に，新しい学びを実現するカリキュラムを開発し実践している。

・３年次は，「総合的な探究の時間」（「グローカルアカデミア」）選択生を中心に国際会議を開催し，国内外の関係者と生徒が広く議論を交わし，地方創生につなげる政策提言を行った。さらに，その提言をコンソーシアムとともに広く発信し，３年間における学びの集大成とした。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組について

(ア) 課題研究「長野のグローカル戦略を探る」（総合的な探究の時間　１学年全員　１単位）

・フィールドワークⅠ　　11/29(月)
　課題研究中間発表会　　２/７(月)・９(水)　→　中止
・課題研究論文作成　　２/10(木)～３月

(イ) 課題研究「SDGs から見た長野のグローカル戦略」
　（総合的な探究の時間　２学年全員　１単位）

・フィールドワークⅡ　７/19(月)
・テーマ探究及び発表会準備　９月～12 月
・プロジェクト発表会及び課題研究発表会　12/15(水)
・研究論文作成　１月～２月

(ウ) 課題研究「グローカルアカデミア」（総合的な探究の時間　３学年選択者 19 名　１単位）

・事前学習会（オンライン Google Meet を使用）　５/10(月)
　信州地域デザインセンター倉根明徳氏による「国際交流に関する基礎知識」「街づくりとは何か」についての講演とグループ演習
・SDGs 地方創生会議 国際会議「グローカルアカデミアオンライン 2021」　５/22(土)
　オンラインのメリットを生かし，生徒自らが国内外から参加者を集めて実施。持続可能な街づくりをテーマに議論を行い，英語で発信。ゲストから高い評価をいただいた。
　ゲスト　David Bromell 氏（NZ, Victoria University of Wellington 教授）
・まとめとしてポスター・英語エッセイを作成　６月～９月

(エ) 「英語キャリアプロジェクトⅠ」　NGP 学校設定科目＊　１学年全員　１単位
　＊「情報」と「英語」を融合させた授業による，ICT 基礎スキル及び英語４技能の向上

・English Bibliobattle　10/２(土)
スピーキングスキル養成を目標に，１年生全員が英語発表。その成果を評価
(オ)「英語キャリアプロジェクトⅡ」　NGP 学校設定科目＊　２学年全員　１単位
＊「情報」と「英語」を融合させた授業。ICT を活用した遠隔地との協働的学び及び場面に応じた英語運用能力を育成
・台湾との協働プロジェクトへ向けた ICT 活用及びビデオ編集スキルトレーニング
・交流校とのライブ会議へ向けた準備
・ビデオ制作（台湾との協働プロジェクト）
・Town Council Debate
(カ) 台湾高級中学校７校とのクラス別オンライン交流（台湾研修の代替）２学年全員
・交流校とライブ会議実施日（国際会議）

１組―高雄市立瑞祥高級中学	10 月 19 日(火)
２組―高雄市立高雄高級中学	10 月　４日(月)
３組―国立鳳山高級中学	10 月　５日(火)
４組―高雄市立仁武高級中学	10 月　６日(水)
５組―国立高雄師範大学附属高級中学	10 月　７日(木)
６組―高雄市立高雄女子高級中学	10 月 20 日(水)
７組―高雄市立新興高級中学	10 月　５日(火)

・プロジェクトの成果を表彰するオンラインセレモニー及び学校別交流　11 月 12 日（金）
(キ)　校外との連携プログラム（Zoom を活用した教科等横断型授業）
・地歴公民科×総合的な探究の時間「ザンビアの鉛汚染」　９月８日（水）
講師：北海道大学研究員 中田　北斗氏
本校だけでなく，県内の他校（１校）の生徒も参加できるよう工夫し，他校との連携と学びの共有を図った。

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

・SGH 事業で開発した「英語プロジェクト」は，英語科を中心とする指導体制が整っているため，英語科を核に，他教科や外部機関とも連携を図りながら「英語キャリアプロジェクト」を発展させている。（特に本校の教員だけでは対応が難しい「情報」などの専門分野については，「総合的な探究の時間」において外部講師を活用）
・「総合的な探究の時間」については，グローバル教育推進室を中心に学校全体が関わる体制ができているため，コンソーシアムとの協働・連携を強化し，昨年度から実施している個別の課題研究の指導・支援体制を整備
・学校のカリキュラムに合わせて，必要なコンソーシアム担当者会議を開催。

⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

・「グローバル教育推進室」を中心に，各教科及び各係と緊密に連携した全校指導体制のもとで事業を推進
・１・２年生は，全員を対象に「総合的な探究の時間」「長野のグローカル戦略を探る」「SDGs から見た長野のグローカル戦略」において課題研究（１年生：グループ研究，２年生：個別研究）を，３年生は，選択科目「グローカルアカデミア」において中心にして取り組む内容（個別課題研究、国際会議、English essay）を１つ選び取り組む。
・１年生のグループ別課題研究及び２年生の個別課題研究の指導については，学年担当の「グローバル教育推進係」が，生徒の研究テーマに応じて校長・教頭を含む全教員に担当を割り振り，全教員が自身の専門性を生かし，生徒の設定する研究テーマに応じて適宜指導・助言を行う。また、コンソーシアムの協力を得て，校外の有識者からも指導・助言をいただく体制づくりを行っている。
・「グローバル教育推進室長」は，海外交流アドバイザー･地域協働学習実施支援員と協力し，コンソーシアムとの連絡・外部講師の招聘・予算の適切な執行等に努め，事業を円滑に推進する。そのため，授業持ち時間を考慮する。

⑥ カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の校内における役割・位置付け

（ア）海外交流アドバイザー

○　恵崎良太郎（松本空港国際化特別顧問）

・SDGs 国際会議 in Taiwan のコーディネート（学校交流，海外インタビュー）

・長野県が交流協定を結んでいる各国からの留学生受入

（イ）地域協働学習実施支援員

○　田中　伸篤（東京海上日動火災保険株式会社）

・地域課題設定アドバイザー，広域フィールドワークコーディネーター

○　中村真紀子（元長野放送報道部及び広報部）

・フィールドワークにおける校内外の情報集約及び調整

・外部講師の招聘，調整，学校の HP による地域・社会への発信

⑦ 学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，計画・研究方法・成果を定期的に評価し，改善していく仕組みについて

・「事業研究委員会」（グローバル教育推進室及び学年課題担当者会･各班担当者会からなる）は，「事業評価委員会」から定期的に評価･助言を受ける。

・管理機関との連絡を密にし，恒常的に指導・助言及び必要な支援を受ける。

・管理機関が設ける運営指導委員会を年２回開催し，研究開発の進捗状況全体について専門的な見地から指導・助言を受け，必要な改善点を明確化する。

・年２回開催する運営指導委員会の事業全体に対する指摘を踏まえ，年２回実施する事業評価委員会及び年３回実施するコンソーシアム担当者会議において，個別の企画について検討を行い，具体的な修正・改善を加える。

⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

・生徒自らが，的確な課題を設定し，その解決につながる実効性ある政策を提言する力を身に付け，将来「長野県　SDGs 未来都市計画」を実現して魅力ある長野を創造する人材となるよう，共通認識のもとで学びの場を提供するとともに，計画的・継続的な助言・支援を行う。

⑨ 運営指導委員会等，取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

・８/26(木)，２/３(木)の２回，運営指導委員会を開催。委員５名による指導・助言

・７/９(金)，２/３(木)の２回，コンソーシアム担当者会議を開催。担当者による情報交換，助言

⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について

（ア）グローバルなスケールでキャリアデザインを始める科目「英語キャリアプロジェクトⅠ」

・「英語プロジェクト発表会」では，自分の好きなテーマについて発表することで，英語で積極的に発信する態度と運用能力の育成を図った。

・総合的な探究の時間「長野のグローカル戦略を探る」と連携し，グループでのブレインストーミング，ディスカッション講座等を実施。英語で思考・議論する国際的対話力の育成を図った。

・パーラメンタリー・ディベートを通じて，自分の立場を踏まえ，的確に主張するトレーニングを行った。

（イ）海外プロジェクトを通して，グローカルファシリテーター育成を目指す科目「英語キャリアプロジェクトⅡ」

・２学年全員が台湾の高校生との協働によるグループプロジェクト，ビデオ協働制作プロジェクト「Video Exchange」に参加。Google Meet を使った話し合いでテーマを決め，Google ドライブなどのクラウドを活用してビデオを作成。優秀な作品を表彰した。国際プロジェクトを通して相互理解を深め，自らの役割を認識する契機となった。

・11 月 25 日（木）に２年生全員が研修旅行で立命館アジア太平洋大学（APU)を訪れ，大学生（国際学生）との交流を実施。台湾との学校交流の際に制作したビデオの紹介等を行った。生徒にとっては，対面での貴重な交流となった。また，コロナ禍でオープンキャンパスの参加が難しい中，模擬講義やキャンパスツアーなど大学生活の体験を通して，生徒の卒業後の進路を考える機会にもなった。

・グローバル講師や ALT との TT による授業では，プロジェクト型体験学習を通して，英語での議論の仕方，ファシリテ―ターとしての役割，ICT 活用技術等を学んだ。様々な意見を踏まえ，英語で建設的に自分の意見を発信する力及び円滑に議論を進める態度の育成を図った。

・「総合的な探究の時間（SDGs から見た長野のグローカル戦略）」の授業と連携し，SDGs と地域課題の解決を目指すテーマについて，ディベートを行った。その結果，英語４技能に加えて，課題発見能力などを養うことができた。

（ウ）グローバルな経験を有する各界の専門家ゲストとして招聘し，グローバル・ローカルな視点から地域創生に資する提言を行う国際会議の実施

・立命館アジア太平洋大学（APU），東京大学，東京外国語大学，早稲田大学の学生，高校生（長野日大高校），アメリカ，オーストラリアの高校生，アメリカで活躍する社会人が参加。４つの分科会に分かれてディスカションを行い，提言を英語でまとめ発表した。会議の様子は YouTube Live で発信。

（エ）リーダー研修と海外交流を通じて生徒を育てる「グローバル人材育成プロジェクト」

・３月 14 日（月），15 日（火）に１年生 25 名が立命館アジア太平洋大学（APU)を訪れ，大学生（国際学生）との交流を実施予定であったが，感染拡大の影響で現地訪問による交流は中止にした。代替として３月 15 日（火）にオンラインによる本校生徒５～６人と大学生でグループを作り，お互いに自己紹介、出身地などについて交流した。

⑪　成果の普及方法・実績について

（ア）発表会の公開：「グローカルアカデミアオンライン 2021」（オンライン限定公開）

（イ）職員研修会

・校内教務係・ICT 係・NGP 事業推進室共催　ロイロノート研修会

（ウ）実践報告

・令和３年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット　１月 20 日（木）

・進路指導・キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス 439 号」掲載

・学校訪問受け入れ（沼津市立沼津高等学校、栃木県立宇都宮南高等学校）

（エ）HP,SNS の更新：NGP ブログによる情報発信，インスタグラムの活用

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（１）進捗状況　　以下の仮説に基づき，目標達成へ向けて概ね順調に推移している。

仮説１	高校生が地域創生に向けた効果的な協働を通じて主体的に活動することで，長野県が「SDGs 未来都市･学びの県」にふさわしいグローカル人材育成の場となる。
仮説２	PBL 型の英語教育と教科横断型の学びを通じて，グローカル視点のキャリア観を段階的に育成することで，グローカルファシリテーターとしての資質が養われる。
仮説３	コンソーシアムと協働し，レイヤー的思考，ブレイクスルー発想，国際的な対話力を養成するカリキュラムを開発することで，生徒の探究的な学びの質が高まり，実効性の高い政策提言を可能にする。

・「SDGs 地方創生国際会議」のオンライン開催による「グローカルアカデミア」の開発　（３学年「総合的な探究の時間」）

・コロナ禍における制約はあったが，オンライン又は感染対策を取りながら以下のプログラムを継続的に実施「ディスカッション講座」「インタビュー実践」「フィールドワークⅠ」（以上１学年「総合的な探究の時間」）「英語プロジェクト発表会」（１学年「英語キャリアプロジェクトⅠ」）「フィールドワーク相談会」「フィールドワークⅡ」「プロジェクト発表会・課題研究発表会」（以上２学年「総合的な探究の時間」）

・課題研究の課題設定においてコンソーシアムから生徒にアドバイスをもらう仕組みを今年度も継続（以上２学年「総合的な探究の時間」）

・まん延防止等重点措置で分散登校（半分の生徒が登校、半分の生徒は自宅でオンライン学習）になったが，グローバルインストラクターと対面授業の教室，自宅の生徒をオンラインで結びオンラインディベートを開発（２学年「英語キャリアプロジェクトⅡ」）

・コロナ禍で当初の研究実施計画の一部変更をせざるを得なかったが，構想調書に記載した設定目標の実現へ向け，研究を推進している。

（２）成果及び評価

今年度外部との協働により開発・改善した主なプログラム １年　インタビュー実践 ２年　フィールドワークⅡ，課題研究に関する助言，ビデオ協働制作プロジェクト「Video Exchange」，プロジェクト発表会・課題研究発表会 ３年　「グローカルアカデミア」における SDGs 地方創生国際会議

（ア）SDGs 未来都市，学びの県にふさわしいグローカル人材育成について　【前年度報告書　課題１に関連して】

・生徒が主体的に地域とつながりながら研究・活動をするようになった。

・１人１台タブレット端末が導入された。タブレットを用いて教員と生徒，生徒同士の双方向のやりとりが可能になり，従来の授業の形式とは大きく変化した。昨年度確立したオンラインシステムも１・２年生に１人１台端末が導入されたことで，授業やオンラインを活用し学びがさらに進化した。生徒・保護者からも高い評価を得た。

（イ）グローカルな視点でのキャリア観の育成【前年度報告書　課題２に関連して】

・「グローカルファシリテーター」のロールモデルを校内外に提示した。

・海外とのつながりを生かして，地方創生を目指す国際会議の充実させた。

・２学年ビデオ協働制作プロジェクトでは，生徒がそれぞれの資質・能力や興味・関心を生かしながら世界とつながり国際貢献に資する体験をすることができた。

・台湾の高校生とのビデオ協働制作プロジェクト「Video Exchange」は，現地の生徒や教育現場からも高く評価された。

（ウ）カリキュラム開発，実効性の高い政策提言について【前年度報告書　課題３に関連して】

・昨年度から，１年生はグループでの課題研究，２年生は個別の課題研究を行う体制に変更し，個別最適な学びの充実を図った。その結果，今年度は２年生の課題研究はより個別研究化が進んだが教職員やコンソーシアムからの指導・助言を生かしながら，より多くの生徒が意欲的に課題研究に取り組めるようになった。

・昨年度よりプロジェクト発表会での発表形式を自由にした。今年度は１人１台タブレット端末の導入により，さらに創意工夫のある発表が行われ，内容も充実させることができた。

１２　次年度以降の課題及び改善点

今年度で国の指定事業は終了するが，SGH の時代から８年で培った新しい学びは今後も充実・発展させる。校外（コンソーシアム，学びのネットワーク）の連携は継続する。今後の課題は以下の通りである。

（１）　課題研究のさらなる充実

・ 課題研究の課題設定を SDGs 関連だけでなく，進路希望に関連させた課題設定も推奨し，生徒の探究活動への意欲のさらなる向上を図る。また，生徒の政策提言だけでなく，生徒が課題解決のため一歩を踏み出す活動を支援する。また，個別研究化に伴い，職員の指導体制の再構築を進める必要がある。

（２）　国際交流の継続

・ コロナ禍で対面での海外における交流の実施は不透明であるが，オンライン交流や国内での代替で交流は継続する。

（３）　その他

①　地域への成果の還元

②　個別最適な学びのさらなる充実

・１人１台タブレット端末の効果的な活用方法の研究

③　生徒間の学びの交流の促進

・新しいカリキュラムの開発は教員主導で行われがちである。研究テーマごとに学年を超えて生徒が集まり研究するなど，生徒間での学びの促進を目指していく。

【担当者】

担当課	長野県教育委員会事務局学びの改革支援課	ＴＥＬ	026-235-7435
氏　名	帶川　有美	ＦＡＸ	026-235-7495
職　名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp